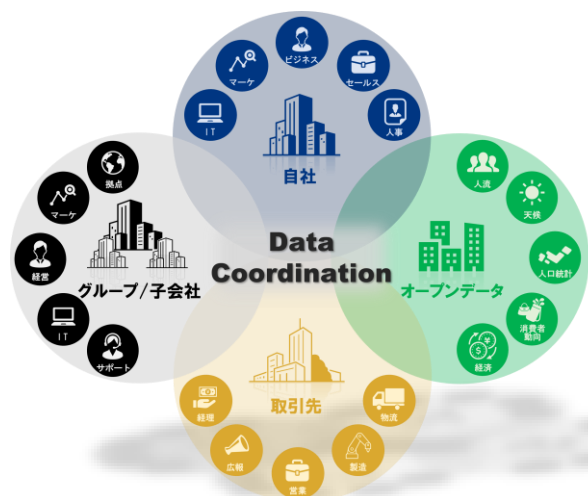


Denodoによる データ利活用の促進と データガバナンス

データは現代のビジネスにおいて最も貴重な資産の一つです。

他方、取り扱いや管理を間違えると業務の遂行に大きな影響を生じさせます。ビジネスを発展させながら、データ本来の価値を最大限に守り抜くためには、適切なデータガバナンスが必要不可欠です。本資料ではデータ資産の信頼性と安全性を確保する、Denodoのデータガバナンス・ソリューションをご紹介します。



データ連携の可能性

データ連携とリスク ーデータガバナンスの重要性ー

ビジネスの変革を求め、これまでは各事業部門に孤立していたデータを統合し、**横断的にデータを利活用**していく動きが広がっています。

そうした中で「横断的」の範囲も、当初とは違う意味を持つようになりました。データ利活用が単一の会社内では完結せず、グループ会社や取引先など、会社の垣根を越えた**ステークホルダーとのデータ連携**を模索するようになりました。

データを価値あるものとして利用するためには、膨大な量のデータを正しく扱わなければなりません。データの**利用価値が高まり、利用者や利用範囲が増える**ということは、「データの取り扱いに関する**リスクも同時に増えている**」ということを意味しています。



ガバナンス不足による被害

世界各国でデータの取り扱いに関する法整備も進んでおり、**個人情報の漏洩等により、巨額な賠償金が発生するケース**も増えてきました。万が一、取り扱いを誤ってしまった場合、ビジネスにデータを活用できなくなるだけではありません。**企業の信頼すら簡単に失墜**してしまうのです。

ビジネス変革をもたらす宝の山である**データ**を「安全」かつ「効果的」に活用していくためには、どうすればいいでしょうか。

データ活用に成功している企業は、動き始める前に**データガバナンス**を定めています。

データガバナンスが機能している状態とは、以下を示します。

- ✓ 「どのようにデータをコントロールしていくのか」を定義している
- ✓ 定義どおりにデータコントロールを実現しているのか、を監視・チェックしている

データガバナンスは、構造化/非構造化といったデータの種別、対象のシステム、データ格納先等の区別を問わず、**取り扱うデータの範囲を網羅して機能させる必要があります。**



データ仮想化によるデータ管理プラットフォーム

「Denodo」は、異なるシステム全体にわたる**一元的なデータアクセス、データガバナンス、セキュリティポリシー**を作成することができます。データソース及び、収集したデータの活用先が離れている場合も、オンプレミスとクラウドに分断されている場合も、Denodoは**データガバナンスとセキュリティの一元管理**を論理的なデータアクセスレイヤーを使用してシームレスに実現します。

データ管理プラットフォーム「Denodo」は以下を可能とすることが特徴です。



一貫性のあるポリシー施行：

データアクセスとセキュリティに一貫したポリシーを適用



ボーダレスな情報共有：

立地にとらわれないデータ統合と地域政策の執行



データ来歴・アクセス管理：

仮想化内データのアクセス管理、カタログ管理によるリネージュを提供

データガバナンス・Denodo導入にお悩みがありましたら [NSW](#) へご相談ください